

風土記の丘の花だより¹²⁶

今、そしてこれから見られる植物(2022年3月20日)

啓蟄が過ぎたからか、トカゲもカエルも出てきています。もう寒くはならないのでしょうか。いよいよサクラの開花が待ち遠しい時期になりました。

満開のサンシュユを見にいくと、独特の香りが漂っていたので辺りを見渡してみると、案の定ヒサカキの花が咲いていました。雄しべがいっぱい詰まった雄花です。雌



雄異株で、雌株には少し小さめの雌花が咲きます。ヒサカキはこの辺りでは「びしゃこ」といって、墓参りには欠かせない植物です。ですから、この花の香りは何となく「墓参りのにおい」みたいなイメージになっています。たしかに、いい香り・・・とは言い難い、何とも表現しがたい香りです。ちなみに、この木は前まではツバキ科でしたが、今ではサカキ科になっています。



入り口の芝生と道の間にはヒメスミレの花が咲いています。ヒメは生物の名前によく用いられることばで「小さめの」という意味があります。名前のおりとても小さいです。野山を余り好まず、人が行き交うような所のそれも狭い隙間によく生えています。タチツボスミレも咲き始めました。これからいろいろなスミレが咲きます。このスミレの近くにホトケノザも咲いています。シソ科のこの草は全く珍しくありませんが、なぜか風土記の丘ではあまり生えていません。細長い花はよく目立ちますが、真ん中に見える赤いまん丸いものも花です。開かない花「閉鎖花・へいさか」と言います。春の七草の「仏の座」コオニタビラコは、古代米を植える田んぼに咲いています。黄色い花です。



ミチタネツケバナの花がたくさん咲いています。細長い実とともに、茎をまっすぐ伸ばしています。同じく白い花ではハコベの仲間が目立っていますが、これはハコベより背が高いのでよく目立ちます。日本には昔からタネツケバナが生えていましたが、これは外国から入ってきた種類です。茎に毛がなくツヤがあるので、毛のあるタネツケバナと比べるとよく分かります。 松下